

学びの創造

ソチで熱戦が繰り広げられていたオリンピックが閉会しました。この後は、同会場でパラリンピックが開催され、秋田県立秋田南高等学校の江野麻由子さんが出場します。また寝不足な日々が続きそうです。

今年度も多くの学校や先生方のご協力のもと、教育実習や教育実地研究を行うことができました。どうもありがとうございます。みなさまのご協力により、卒業生の教員採用率も少しずつ改善し始めています。秋田県の教育の未来を担う学生たちを、秋田県全体で支えていきたいものです。

★国立大学教育実践研究関連センター協議会の報告

平成26年2月17日(月)～18日(火)にかけて、東京学芸大学を会場として、第84回国立大学教育実践研究関連センター協議会総会が開催されました。本学からは、浦野、神居、柴田、姫野が参加し、総会と各部門の活動に参画してきました。

最初に行われた文部科学省の高等教育局大学振興課教員養成企画室長 佐藤弘毅氏による講演では、少子化が進むこれからの学校教育が取り組むべき課題、教育を担う教員の力量向上にむけた様々な施策、全国の教職大学院の取組事例が紹介されました。大学改革に関しては、平成28年度以降の第3期中期目標期間に目指す国立大学の在り方、とりわけ教員養成系大学・学部求められるミッションの再定義をふまえた機能強化のための方策について、多視点からの話がありました。

続けて行われた総会では、教育臨床部門、教育実践・教師教育部門、教育工学・情報教育部門の活動状況の報告、全国のセンターが取り組んでいる事業等に関する情報交換が行われました。各センターがどのように教育実習や学校ボランティアを支援しているのか、新しく設けられた必修科目「教職実践演習」の進め方、教育委員会や学校との連携に関する取り組み等について、各大学の特色等が報告されました。学部の改組や教職大学院の創設等と連動してセンターが担うべき役割が変動する中、今後も教育臨床、教員養成、情報教育についての実践研究および研究支援を進めるための具体的な取り組みについて意見交換を行いました。

★教育実地研究の取りくみに関する報告

教職を目指す学生たちが、学校や児童館、少年自然の家などでボランティア活動を行う「教育実地研究」という授業科目を2012年度に創設しました。1年次から4年次まで参加することができ、教育実地研究Ⅰは、児童館または特別支援学校、Ⅱは生涯学習施設、ⅢとⅣは市内の小中学校で活動を行っています。今年度は、以下の表のように、延べ119名の学生が参加しました。

2014年度の入学者からは、学校教育課程の110名全員が教育実地研究Ⅰに参加します。教師を目指す最初のステップとして、子どもたちとの触れ合いから多くのことを学んでほしいものです。

	学校・施設名	参加学生数	学校・施設名	参加学生数
Ⅰ	東児童センター	4名	土崎南児童館	2名
	旭川児童館	4名	秋田県立栗田養護学校	9名
	広面児童館	4名	秋田県立盲学校	3名
	明德児童センター	3名	秋田県立聾学校	6名
	八橋児童館	1名	秋田県立きらり支援学校	6名
	大住児童館	2名		
Ⅱ	まんたらめ	9名	保呂羽山少年自然の家	23名
Ⅲ	秋田市立保戸野小学校	8名	秋田市立旭北小学校	7名
	秋田市立明德小学校	9名	秋田市立旭南小学校	6名
Ⅳ	秋田市立中通小学校	7名	秋田市立下北手小学校	6名

★たまご教師の奮闘記④ 人間環境課程 自然環境選修 3年 景山優介

一次試験まで残り5ヶ月。私は現在、7月に行われる教員採用試験に向けて日々対策に励んでいます。求められる人材に近づくにはまだまだ努力が必要で弱音を吐きそうになることもあります。教育実習で出会った生徒たちとの思い出とそこで得た経験が原動力となり、頑張り続けることができている。中でも、実習中毎日見せてくれる生徒たちの笑顔はエネルギーの源でした。電車通学の私は帰宅時間が遅い上毎朝5時に起床するという生活を送りましたが、学校に着き生徒の顔を見た途端、疲れを忘れ今日も頑張ろうという気持ちになるばかりでした。



教育実習で得たことは、「いい意味で思い通りの授業なんて出来ない」「生徒の反応は予想外のことが多い」ということです。時間をかけて教材研究をしても、生徒の些細な質問や意外な行動から気付かされる視点や戸惑いは数多くあります。ですが、それは生徒の表情や取り組みをきちんと見ているからこそ気付ける点なのではないでしょうか。そしてそのように考えると、「生徒はこんな発想もするのか!」「こんな見方もあるのか!」とこちらが学ぶことも多く、生徒の先生は教師であるように、教師の先生は生徒であると実感する日々の連続でした。また、授業以外でも生徒の存在は私の支えとなってくれました。休み時間のたわいもない会話。廊下をすれ違う際の挨拶。私の何気ない発言に興味を持ってくれる時のキラキラした瞳や、分からないものがあれば何だろうと知ろうとする姿勢を見て、彼らのためになるのならいくらでも時間を費やそうと決心しました。最終日に撮った集合写真は涙で顔がボロボロですが、それもまたいい思い出です。

自分一人での勉強は、時には辛くなることもあります。そんなとき心の支えになってくれるのが、同じ夢を持つ仲間、先生方、そして実習先での思い出です。実習を乗り越えた素晴らしい仲間達と共に、生徒たちに夢を持たせられるような教師を目指して、周りの環境に感謝し切磋琢磨していきたいと思えます。

★大学・大学院における研修を経験して④ 秋田県総合教育センター研修員 高橋 晋

10月4日のオリエンテーションから12月20日までの約3ヶ月間、私を含め6名の研修員が、教職発展演習に関わらせていただきました。「学級づくり」「授業づくり」「生徒指導」「特別支援教育」の内容を柱に、演習と協議を中心とした授業を構成しましたが、「大学生に授業をする」という、これまで全く経験のないことに誰しもが戸惑いました。しかも、私たちは所属班や校種が異なっていたこともあり、それぞれの立場の違いによる様々な思いを一つにまとめ上げていくには、思いの外時間を要しました。しかし、十分な打合せができたことにより、実際の授業ではチームティーチングの効果を十分に発揮できた場面が少なくなかったと感じています。その中でも特徴的であったのは、学生の反応やその場の状況に応じて、授業を再構成する場面が毎回のようにあったことです。瞬時に授業の流れを修正していくには、「阿吽の呼吸」にも似たお互いの関係がなければ難しいことだと思えます。このように取り組むことができたのも、私たちの打ち合わせや準備の時間を十分に保証していただいたことや、大学の先生方の温かいご理解とご協力のおかげだと感じています。また、教職発展演習で毎回のように驚かされたのは、学生の考える力の高さと教職に関する知識の豊富さです。その力には、私たちの問いかけに対して、次第に広がりや深さを増していくしなやかさがあり、時間が経つのも忘れ対話し続けてしまう場面がよくありました。これは、もともと学生が備えている力でもあると思いますが、実践的な力の育成を意識して取り組んでこられた、大学の先生方による質の高い教育に裏付けされているものと感じました。今回、このように教職を目指している学生や関係の先生方と関わる機会を得て、私たち研修員も多くのことを学ぶことができました。学生の皆さんとは、いつの日か同じ職場で一緒に働けることを楽しみにしたいと思います。最後に、このような機会をいただくことができたことに心より感謝申し上げます。